

風 からの (現場) フィールド

宮田守男

今日は、(3)ゼロ(0)の語呂合わせから「コミゼロの日」。また「掃除機の日」でもある。梅雨に向けて湿度が上がる時期は、就寝時に蒸

し暑さを感じる厚手の掛布団も通気性の良い薄手の寝具にと思っても朝晩の冷え込みに衣替えに悩む。

世界各地から紛争の情報が続いている。東京新聞などが連載した「平和の俳句」の中に印象に残る句「平和とは一杯の飯初日の出」。一杯の飯が当り前のように食べられる。そんな当たり前の毎日がいつまでも続くことを平和などの理想が込められているの

だろう。だが毎日続く米騒動に、対応の物足りなさを感ぜてしまう。調理科学の専門家、早川文

代さんの著書「食語のひとつとき」に高級茶の玉露、日本酒、ミルクはぬるい方がうま味や甘みが出やすいと記述している。確かにぬるいビール、ぬるい鍋など「ぬるい」と感じた瞬間、味が落ちてしま

「ぬるい」と言う感情が漂っている

うのと同じように、この米騒動の対応は、どっちつかず、小出しでコメの供給の物足りなさを感ぜてしまう。「ぬるい」と誰だっって一喝したい気持ちになっ

てしまうのだろうか。スターバックスコ

ヒーシャパン前CEOの水口貴文さんは講演で「一つは諦めないこと、どんな事でも最初からうまくいくとは限らないが、何度でも挑戦する度に課題を改善でき、いつかは成功する。こだわり、やり切

ることが大切」従来のやり方にとらわれず、新しい方法を模索して行くという考え方の下、諦めずに工夫を重ね、挑戦していくことが必要」と語っている。失敗を非難するのではなく、食料危機時

代への準備を学ぶ時期なのだと言容な考え方をもちたいのだが、現状の物価高での日常生活の大変さが寛容さを失ってしまうのだろうか。

今年も「夏日」の情報が続く。気象用語で、最高気温が35度C以上の日を猛夏日、30度C以上の日を真夏日、25度C以上の日を夏日、0度C未満の日を真冬日、最低気温が0度C未満の日を冬日という。毎年5月には「夏日」の表現が続くが、夏日と言われると感ずる暑さも厳しさを強くする人も多いのではないだろうか。温暖



23日開催の長野県日中友好協会定期大会での阿部知事の来賓あいさつ。日中お互いの理解の必要性を話す

化が進む時代に観測記録を積み重ねることを重視する考え方も理解するが、夏日との呼称が本当に暑さの実態を知らせる用語として適当なのか考える時期ではないだろうか。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)